

平成 27 年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	長期不況の行動経済学的分析
研究代表者	小野 善康（大阪大学・社会経済研究所・教授）
研究期間	平成 27 年度～平成 31 年度
審査結果の所見	本研究は、長期不況の解明を行動経済学的に分析するものである。これまで応募者は、世界に先駆けて長期不況の研究を進め、貨幣保有の動機解明やデフレのメカニズムについて、国際的に最先端の研究成果を発表している。これらの研究成果を発展させ、行動経済学や非市場制度設計の知見も活用する研究は、世界的にも先駆的な研究内容であり、極めて独創性が高い。この研究を遂行することで、不況の経済学に新たな発展が生まれる可能性があると考えられる。 このように、本研究は当該研究分野をリードし、日本が世界に誇れる研究であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。